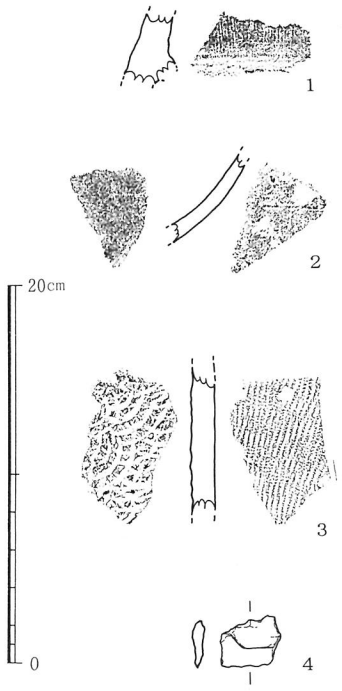
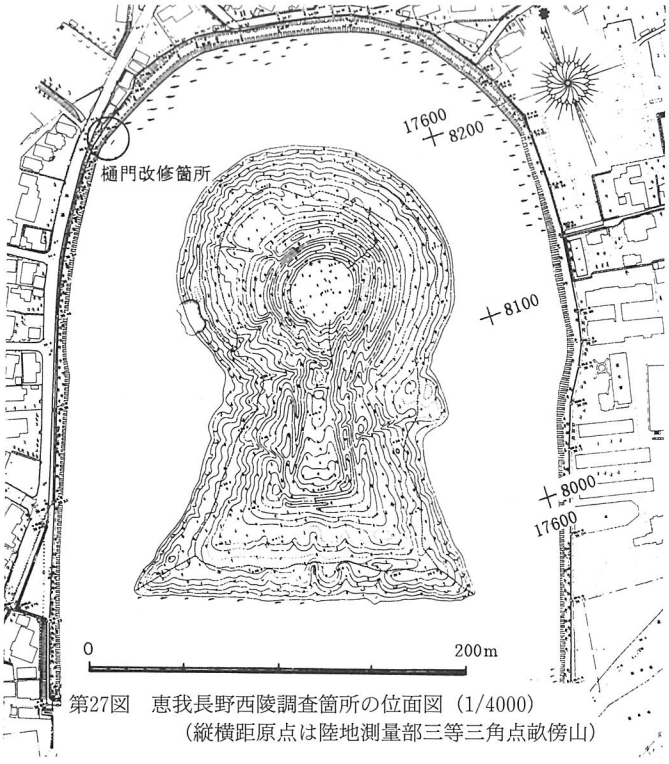


第26図　男狭穂塚女狭穂塚陵墓参考地の採集品（1/4）

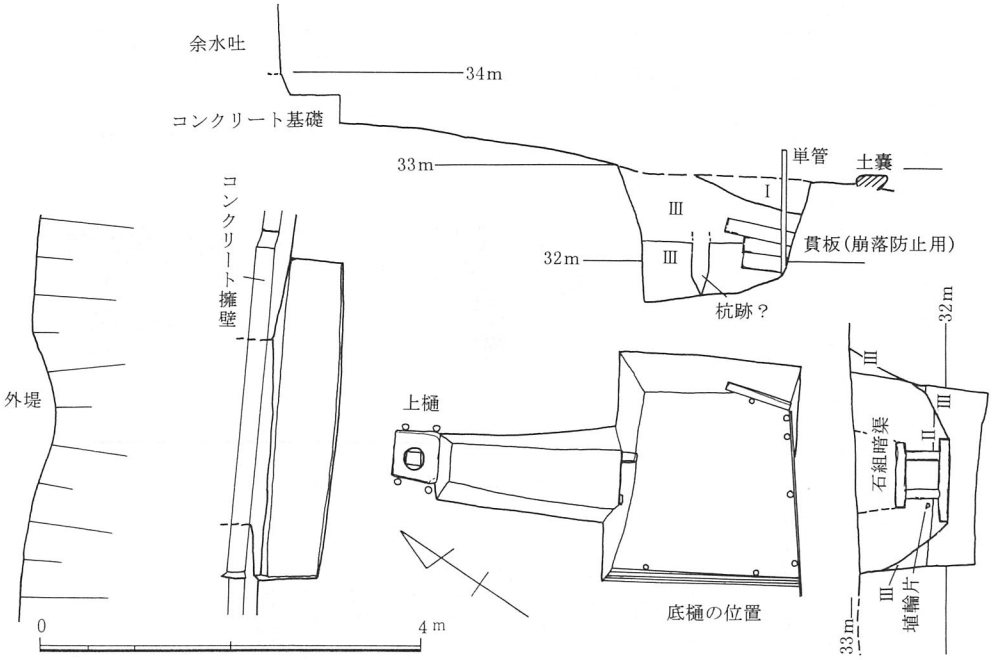
仲哀天皇　恵我長野西陵墳塋護岸その他整備工事箇所の立会調査

仲哀天皇の恵我長野西陵は、大阪府の古市古墳群西端付近に位置する全長二四〇メートル強の前方後円墳である。本誌前号で報告のように、平成八年一一月に事前調査を行い、その結果を勘案しつつ、工法を定めたところである。工事は平成九年一一月に発注されたが、護岸工事については掘削を伴わず、翌年三月に予定どおり竣工した。一方、堆積土除去と樋門改修箇所については、平成一〇年三月の掘削中と埋戻し時に立ち会った。堆積土除去は事前調査の所見をふまえ、近年の濠内堆積土内にとどめたため、新たな所見はなかった。以下、その樋門改修箇所の調査の概要を報告する（第27図）。



第27図　恵我長野西陵調査箇所の位面図（1/4000）
（縦横距原点は陸地測量部三等三角点畝傍山）

樋門改修箇所は外堤北西部の内法裾に位置する。この部分の外堤は既存余水吐設置のため、大きく立ち割られたところでもあり、さらにその下位を樋管が横断している。該所には樋門が二箇所にあり、今回はその濠側の底樋部分を中心に、一部外堤側の上樋にかけての部分を掘削した。涌水が多く、調査は難渋をきわめたものの、地層は以下の四層に区分で



第28図　恵我長野西陵調査箇所の断面および平面図（1/80）

きた。

I層　濠内堆積土。有機物や空缶などを含む濁黒色土。

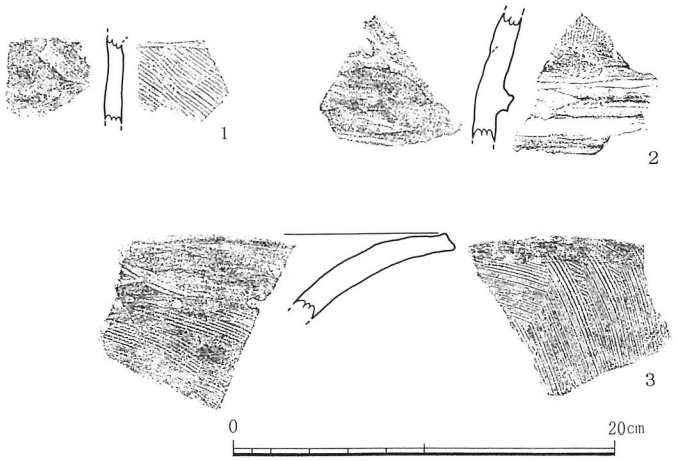
II層　樋管（石組暗渠）埋設のための掘方の埋土。締まりのよい粘性を帯びた暗青灰色砂質土。埴輪の小片が一点検出された。下層は堅く締まった灰色粘質土からなる刃金土となっている。

III層　地山。二分できる。上層は青灰色粘質土混じりの暗灰色砂質土である。下層は濃青灰色、もしくは緑味を帯びた粘質土で、スコップを跳ね返すほど堅い。下層の上面は標高三二・二メートル程でほぼ水平に拡がっている。

外堤外法部分では昭和五〇年の調査により、標高三四メートル前後に基底部を据える埴輪列が検出されている（本誌第二八号参照）。今回の調査箇所はレベル的にも深く、埴輪列を据えたとされる「黄褐色の粘土層」も確認できなかった。III層上層上面と併せて、濠水などにより大きく浸食されていると考えられる。工事は予定通り施工した。

なお、今回墳頂部東側で一点、墳丘西側のくびれ部付近の裾部で三点の埴輪片を採集した。II層から出土した埴輪と併せて報告する（第29図）。

円筒埴輪（1・2）　II層出土の1は外面灰褐色、内面暗橙褐色、墳頂部採集の2は灰色を呈する。ともに焼成の良好な硬質の製品である。前者は突出度は低いものの、上端・下端・側面ともに強くナデ付けられ、断面M字となった突帯を有する。突帯と胴部との接合に際しては、強い



第29図　恵我長野西陵の出土品（1/4）

ヨコナデを施しているが、とりわけ上端ではヨコナデの後、さらに爪先状のものでナデ付け、接合部を強調している。また、外面下側には二次調整としてのヨコハケが認められる。内面には、粘土帯を積み（巻き）上げる際に擬口縁に刻んだ斜め方向の切り込みが観察される。後者は外面を右下がりのナナメハケで仕上げている。

朝顔形埴輪（3）　墳丘西側くびれ部からの採集品。大きく外反した口頸部である。口径は五二センチ前後に復元できる。外面は右下がりのナナメハケの後、斜め方向に近いタテハケを加えて仕上げている。茶褐色を呈する製品で、内芯は青灰色を示している。

（福尾　正彦）

隆子女王墓金網フェンス設置他整備工事箇所の立会調査

隆子女王墓は、三重県多気郡明和町大字馬之上にあり、斎宮の北西に位置する。周囲は遮蔽物のない広い平野であり、失われているものも多いが、頭椎大刀を出土した坂本一号墳をはじめとして、現在でも数多くの古墳が点在し群集墳を形成していたことが知られる。調査は、本墓の境界沿いに新たに金網フェンスを設置し、参道の舗装を行うなどの整備工事が行われるのに伴って、平成九年九月九日から一二日の四日間に渡り実施した。

掘削を伴う工事箇所を中心に、域内に四箇所のトレンチを設定した（第30図1）。第1・2トレンチは参道の舗装箇所で、約三六メートルに渡って、深さ〇・四メートルを掘削した。土層は四層に分けられ、1層は砂利層、2層は黄褐色粘質土層、3層は混礫砂層、4層は黒灰色細砂層である（第30図2）。これらは、トレンチ内ほぼ全体で均一に確認でき、両トレンチとも同様の状況を示すことから、既存の参道を整備した際の盛土と考えられる。第3トレンチは排水桝設置個所で、深さ〇・六メートルまで掘削した（第30図3）。土層は二層に分けられ、1層は第1・2トレンチの4層に対応すると考えられる盛土である。人頭大の石のほか、小礫を多く含んでいる。2層は黄褐色粘質土で礫などを含まない安定した堆積状況を示す。遺構面になり得る土層だと考えられる。第